

Profile

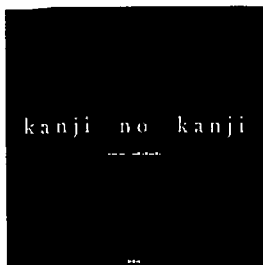


鳥屋尾 健 (とやおたけし)

1976年愛知県生まれ。中学校の臨時教員を経て、財団法人キープ協会環境教育事業部に所属。コテコテの生き物プログラムから、親子お楽しみ系、指導者養成の研修系、事務局業務、環境整備、広報など、何でも担当。最近1児の父となり、日々の生活がますます楽しくて仕方がない。「教育」が人生のテーマ。「脱力系」が人生のスタンス。世界はもっともっとステキになるといつでも思っている。

連絡先

財団法人キープ協会 環境教育事業部: <http://www.keep.or.jp/FORESTERS/>



扶桑社: 2003年
価格: 1,143円・税

感じの漢字 kanji no kanji
高橋 政巳 著

ページまるごとを使った作品と対になる文章、赤と黒のデザインがとても心地よい一冊。
古代文字を彫ったり、書いたりしている「築墓家」の著書が、漢字の語源から先人が残した知恵や勇気のメッセージを届けてくれます。古代の人が見ていた世界。3000年前の人達は、とても詩人でした。絵心たっぷりで哲学的でもありません。
先人がみていた世界のメッセージが、漢字の中には秘められています。
人間として大切なことは、何千年前からずっとかわってはいない。



合同出版社: 2006年
価格: 1300円・税

世界から貧しさをなくす30の方法
田中愛・畑田秀樹・マエキタミヤコ 監

貧しさは豊かな国の側が作った世界の仕組みの問題だ。現実の「貧しさ」を知ることとともに、「貧困を生み出すしくみに気づく」ことが大事だ。16人の編者を含む執筆者が身近な視点からわかりやすく伝えてくれる一冊。
「おカネで世界を変える30の方法」「戦争をしなくてすむ世界をつくる30の方法」等のシリーズがある。
1人ひとりの生活が、どんなことにつながっているのか、視点を変えれば見えなくなる。
1人ひとりの生活はいいことも、悪いことも、世界へとつながっている。



毎日新聞社: 2008年
価格: 1900円・税

もりのようちえんのうた
八ヶ岳の森に育つ子どもたちの記憶
篠木 真 写真 財団法人キープ協会 監着

「そのまんまでいいよ」という言葉が聞かえてきそうな写真を中心にした2冊です。
「自然は子供らと対等に向き合ってくれ」写真と撮影した篠木さんは書いています。
自然に包まれながら、その時間と向き合う子供たち。それを見守る、保育者の目。
森の中で過ごす子供と大人の豊かな時間。写真もステキ。
巻末の、「森のようちえんのエピソード」と「森のせんせいのひそひそ話」もステキ。
子供の目もステキです。それを見守る大人の目もステキです。

環境 Library

世界でおきるすべてのことは、それを見つめる人と、見つめる視点が変われば、まるで違って見える。

ある人にとっての昇る朝日は、ある人にとっては沈む夕日。おもしろい動きの虫だなと思う人と「こないで〜」と思う人。誰かにとっての何気ない一言が、誰かにとっては心の中にいつまでも残る一言になる時もある。

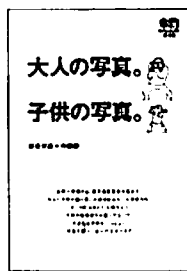
誰もが自分の経験と心のフィルターを通して世界を見ている。

自分ひとりの中でさえ、いつでもそれは同じじゃない。自分ひとりの小さな視点だけで世界を見ているなんてもったいない。時には、他の人の目と視点を借りて世界をみると、見えてくるものは違ってくる。

他の人の目になりきれなくても、「そんな風に見えるんだ」と思うだけでもおもしろい。笑ったり、泣いたり、怒ったり、…そんなことも全部包み込むように、世界は豊かな時間とすてきな事件にあふれている。

視点が変われば、世界が変わる

文 鳥屋尾 健



樹出版社: 2006年
価格: 650円・税

大人の写真。子供の写真。
新倉万造・中田熾 著

カメラをもった大人と子どもがパチリ、パチリ。同じものを見ているつもりでも、見えているものも、心の中で起こっていることはまるで違う。子供の視線、大人の視線は単純に高さだけの問題ではなく、何かと出会った時の感動のレベルだ。カメラひとつで生きてきた写真家の大人と、カメラを持つことを許されただけでうれしくて仕方がない子供の、絵日記みたいな文庫サイズの写真集。
子供の頃に、自分が過ごした場所を今の自分が訪ねたらどんな風を感じるんだろう。



樹出版社: 1978年
価格: 1,400円・税

宇宙 その広がりをしるう
加古里子 ぶん／え

加古里子さんの本は、どれも眺めていだけで楽しくなってくる。
小さな童のとぶ高さにはじまって、いろいろな動物や建物、乗り物の高さや速さ、だんだんと視点は大きくなっていく。人の歴史や生き物のすごさを感じるたくさんさんの絵と数字は、ついには宇宙の果てまでたどりつく。
同じシリーズの本に「川」「海」「地球」その中をさぐるう」がある。
この本の最後はこんな風に締めくくられている。
「このひろい宇宙が あなたの活躍するところですよ。では 宇宙の果てからお別れします。さようなら！」